

加古川市障害者自立支援協議会専門部会 活動報告

加古川市障害者自立支援協議会専門部会 事務局

加古川市障害者基幹相談支援センター

令和5年度の活動報告と令和6年度の活動方針

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、従来の開催頻度に戻して積極的な協議と活動を行った。

【くらし・こども専門部会】

□ くらし・こども専門部会 開催：1回

従来の両部会の取り組みを共有し、令和5年度の開催方針について協議した。

□ くらし部会 開催：8回

令和5年度の取り組みの検討・実施と令和6年度の方針について協議した。

① 「グループホームサポートシート完成記念研修会」の開催

日時：令和5年7月14日（金） 13：30～15：30

講師：MS&AD インターリスク総研株式会社 小島勝治氏

内容：令和4年度から協議を継続してきた「グループホームサポートシートの改定」「BCP（事業継続計画）の情報共有」「グループホーム間のネットワークづくり」につき、グループホーム支援者に加え福祉・医療関係者を対象として、グループホームサポートシートの完成披露と合わせたBCPの講習会とグループホーム支援者間のネットワークづくり

参加者：グループホーム職員、障害福祉事業所、医療関係等 25名

② 「事業所交流会」の開催

日時：令和6年2月15日（木） 13：30～15：30

内容：「グループホームサポートシート完成記念研修会」でのネットワークづくりに係るグループワークが好評であったことから、生活に係る支援者全般を対象を広げてワールドカフェ風グループディスカッションでの交流会を開催

参加者：グループホーム、ヘルパー事業所、短期入所、入所施設、相談支援事業所等の生活面を支える支援者 25 名

【令和6年度の活動方針】

コロナ前からのテーマが持ち越しになっていたが、コロナ禍を踏まえ一気にグループホームが増える等地域課題の状況が変わってきている。

“くらし”部会である以上地域住民へのアプローチが求められ、「障がい者」である前に「地域の生活者のひとり」であることの認識を市民へ啓発し広めていくことが求められる。

“障害”のことを正しく知ってもらうよう進めていくため、まずはグループホームと地域が良好な関係で関わりあえているような内容の映画上映会等の開催に向けた協議を始めていく。

□ こども部会 開催：2回

令和4年度の【就学児ワーキング】【未就学児ワーキング】において、支援の必要な子どもたちとその保護者にとって「子どもの成長に応じて専門機関につながる事がとても大切」との意見がまとまったため、令和5年度は両ワーキングを統合した。その上で、就学前後の課題も合わせて協議する【こども支援ワーキング】に変更し、0歳～18歳までの子どもが利用できる相談窓口や学校、福祉サービスなどの情報をまとめたフロー図の作成を進めた。

■ こども支援ワーキング 開催：5回

福祉、教育、保健、当事者団体等で構成し、児童期に係る専門機関の情報を集約したサポートシート『にじのわっか ～ちょっと気になる子どもの歩み応援シート～』の作成を進めた。

■ 医療的ケアワーキング 開催：2回

医療的ケアの現状や課題を知るための部会員向け講演会と支援（介助）力向上のための研修会を開催した。

①「医療的ケアのある生活」

日 時：令和5年8月3日（木） 10：00～11：30

講 師：就労継続支援B型事業所『チッチのお家』 簗田由美氏

動ける医療的ケア児を育てる母親 岡田恵美氏

内 容：当事者・家族からの講演と質疑応答

参加者：医療的ケアワーキングメンバー、市内相談支援専門員2名

②「肢体不自由児通所支援事業所初任者研修」

日 時：令和5年10月13日（木） 9：30～11：30

講 師：加古川市こども療育センター 理学療法士 浅井知恵氏

内 容：講義「肢体不自由児の身体の特徴と身体介助、支援について」「職員の腰痛予防について」

実技「基本的な介助方法について」

対 象：市内の児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所の概ね入職3年以下の職員

参加者：7事業所 11名

【令和6年度の活動方針】

こども支援ワーキングを中心に進めてきた令和5年度の取り組みであったが、サポートシートの完成にめどがついてきたことから、令和6年度はその配布とその作成工程において見えてきた関係機関の横のつながりづくりを進めていく。それにあたり、幅広い関係機関の意見が効果的となるため、主な協議の場をワーキングから部会へ移行し、企画と検討を進める予定。

【しごと・差別解消専門部会】

□ しごと部会 開催：7回

① 部会（自立支援協議会）のあり方について共有と協議

「地域課題の抽出、その上で法や制度、現状の資源等で解消できない課題について関係機関が集まり、解消に向けた取り組みを協議・推進していく」組織であることを共有した。

② 「事業所意見交換会」について

3年ぶりに開催した令和4年度「事業所意見交換会」が好評であったため、継続開催に向けて前回アンケートからの改善点を踏まえ内容の協議を行った。

③ 「令和5年度 事業所意見交換会」の開催

日 時：令和6年1月11日（木） 13：30～15：30

内 容：ワールドカフェ風グループディスカッションを通して「顔の見える関係をつくる」「地域課題を抽出する」

参加者：就労移行、就労継続A・B型、生活介護、計画相談、学校、ハローワーク等 28名

【令和6年度の活動方針】

① 令和5年度に開催した「事業所意見交換会」が好評であったため継続開催する。

② 令和6年度報酬改定を受け、適正な運営に向けた障がい者支援課との質疑応答を行う。

③ 地域課題の抽出を目的とした事例検討会を実施する（方法等は今後検討）。

□ 差別解消部会 開催：2回

- ① コロナ禍前の取り組みと当該部会の目的の共有
- ② 不当な差別的取り扱いケースの共有
- ③ 今後の取り組み（合理的配慮に関すること、障害の理解・啓発、基幹相談支援センターの周知等）について意見交換

【令和6年度の活動方針】

障害に係る差別解消の状況ならびに課題を部会員と協議し、フォーマル・インフォーマルを通じた啓発活動等、部会としての取り組みにつなげていく。

【相談支援専門部会】 開催：7回

定例会に加え、多職種連携を図るための制度や多職種における役割・機能を学ぶワーキングとして「ミルフィーユ会議」の開催、また学校と相談支援専門員とのスムーズな連携を目標とした「特別支援教育コーディネーターブロック会」への出席等を行った。

① 定例会の開催

計画相談に係る様々なテーマ（模擬事例から課題抽出、地域づくりを考える、加算について、ケアマネとの交流会等）を取り上げ、グループワーク等を通して意見交換を行った。

② 特別支援教育コーディネーターブロック会への参加

部会員が分かれて各ブロックの会議に参加した。

■ ミルフィーユ会議（ワーキング） 開催：2回

学校教育課特別支援教育係と訪問看護事業所からの説明と質疑応答を行った。

【令和6年度の活動方針】

これまで事務局主体で取り組み内容を決めていく傾向が強くなっていたこともあり、あらためて部会員が一員として活動できる体制に移行するため、年度の初めに今後取り組みたい内容や開催頻度などの意向を確認し、その上で部会員が主体となり進めていくものであることを共有する機会を設ける。

防災や個別避難計画について協議提案が挙げられている。

以上